

令和4年度 自己評価計画書

1 教育活動

石川県立医王特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
(1) 生きる力の育成	① 主体的・対話的で深い学びの充実	小中高	学習指導要領の改訂を踏まえ総則や各教科等の趣旨を確認し対応する必要がある。児童生徒は少人数のため、思考の広がりや深まりに課題がある。また、児童生徒は学習空白があることが多く、前籍校への復帰又は進学・就職に向けての支援を適切に行う必要がある。	【満足度指標】 新学習指導要領の理解を深める。児童生徒の状況を把握共有し、主体的・対話的で深い学びにつながる実践を行う。児童生徒が理解できた、深く学んだと感じる。	授業に自ら取り組み、授業内容を理解できたとする児童生徒の割合は A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末まとめ 【評価対象】 AB組児童生徒
		病棟訪問教育	学習指導要領の改訂をふまえ自立活動の趣旨を確認し対応する必要がある。児童生徒は障害が重度で表出が微弱であるため、受容や表出、変容の捉えに課題がある。	【努力指標】 新学習指導要領と病棟訪問教育の教育課程の理解を深める。児童生徒の受容や表出を細やかに捉え、フィードバックし、主体的・対話的で深い学びにつながる実践を行う。	ICT機器を活用した教材の工夫と充実とコミュニケーションに配慮した指導・支援を行い、指導・支援の改善が見られたと考える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 病棟訪問教育担当教員
(2) 教員の専門性の向上及び働き方の工夫	① 授業力向上・教材・教具の工夫と効果的な活用	教務課	教材・教具を工夫してわかりやすい授業を行ったり、ビデオ記録による授業分析を行ったりしている。よりよい授業を目指して不断の工夫と活用が必要である。	【成果指標】 ICT機器を始めとした教材・教具等を活用して授業を行い、授業目標の達成につながるができる。	ICT機器を始めとした教材・教具等を活用して授業を行い、授業目標の達成につなぐことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員
		教務課	多様な病種の児童生徒が在籍しており、適切な指導のため病種理解が必要である。新任者等への研修も充実する必要がある。	【努力指標】 病種理解の研修会を多く開催し、研鑽を積み指導に生かす。	病種理解のための校内研修会を受け、児童生徒への対応や指導に活かすことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員
		教頭	一人一人の業務量は一定ではなく、負担感も違うため、校務の平準化や勤務時間を意識した校務処理については継続した意識改革が必要である。	【努力指標】 定時退校日には定時に退校できるよう勤務時間を意識した校務処理を行うことで教材研究などに充てる時間が増える。	定時退校日には定時に退校処理を行うことができたとする教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員

(3)	安心安全な学校作り	①	コロナ対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	指導課 小中高 病棟訪 問教育	コロナ禍で学校行事・学部行事の中止・縮小が相次いでいる。実施に向けて可能な方法を検討し、安心安全に実施していく工夫が必要である。	【努力指標】 病院と連携し、各種行事について実施時期、内容、会場等について安心安全な方法を企画・運営する。	学校行事や学部行事について、病院と連携しながらコロナ対応を含めた安心安全な方法について検討・企画し、実施内容に満足できたと感じた保護者・教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	行事実施後 中間・年度末 調査 【評価対象】 保護者・教員
		②	安全防災対策の充実	指導課	危機管理対応として、授業や訓練、各種研修会を実施し児童生徒・職員の意識を高めている。実際に行動できるような情報共有、体験活動が必要である。	【満足度指標】 いろいろな状況を想定した体験活動を行い、緊急時に各自が判断し行動できるようにする。	安全防災に関する授業や研修等を受け、訓練において実際に判断し行動できると考えた児童生徒・教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	訓練や研修会 実施後 年度末 まとめ 【評価対象】 小中高児童生 徒・教員
(4)	保護者、病院、地域との連携	①	教育活動への理解のための広報活動の推進	総務課	学校だよりやホームページ、メール配信等を通して情報発信しているが、外部のあらゆる立場の人たちには、様々な角度からの情報更新をする必要がある。	【満足度指標】 学校だよりやホームページ、メール配信等で、新しい情報を得ることができる。	学校だよりやホームページ、メール配信等により、学校における新しい情報や有用な情報を得ることができたという回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末 調査 【評価対象】 保護者

2 センターの機能

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考		
(1)	小中高等学校・特別支援学校・関係機関との連携	①	教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	地域の小中学校病弱特別支援学級担当者に本校の存在が周知されるようになってきた。担当者が毎年替わる学校が多く繋がりを維持し深めていく必要がある。	【努力指標】 担当者が替わっても繋がりを維持し深めるため、アンケートの協力依頼や定期的に電話やメール等で連絡を取り合う。	電話やメール等で連絡を取り合う機会が各学校 A：3回以上あった B：2回あった C：1回あった D：なかった	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	中間・年度末 調査 【評価対象】 コーディネーター、専門相談員
		②	小中高等学校・特別支援学校等への情報提供	教務課	地域小中高等学校・特別支援学校等に対して病弱特別支援学校として研修会を開催し、高い評価を得た。今後も継続していく必要がある。	【満足度指標】 講演会・研修会の参加者が有益な情報を得ることができる。	講演会・研修会の内容が参考になったと回答した外部参加者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	中間・年度末 調査(講演会終了後、アンケートを実施) 【評価対象】 外部参加者
(2)	前籍校・病院等との連携	①	児童生徒に即した支援の充実	小中高	慢性疾患の児童生徒は病状回復途中で前籍校に復帰したり進学・就職したりする。そのための支援を適切に行う必要がある。	【努力指標】 前籍校や病院等と情報交換し次のステップに向けて個々に応じた支援を行う。	前籍校や病院等と連携し、個々に合わせた支援を行うことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	中間・年度末 調査 【評価対象】 AB組担任

